

「与えて与えられての人の繋がり」

山口県 安禅寺住職 村上邦明
あんぜんじ むらかみ ほうみょう

私は、住職として今住んでいるお寺とは別に、もう一つのお寺の住職も 勤めています。そこには元住職の奥さんが住んでおられ、本堂や庭の掃除、お参りの方への応対などをして頂いています。

先日その奥さんが足を骨折し、二か月間入院することになりました。その間奥さんがされていた役割を、私が代わってすることにしました。しかし、私は住んでいるお寺のこともあり、このお寺に毎日長くは滞在できません。

ところがある日そのお寺に行くと、一人の女性が庭の草取りをしてくださっていました。また次の日にも、その女性は草取りを下さっていたのです。そのようなことが何度か続き、私はその女性に「いつもありがとうございます。とても助かっています」とお礼を言いました。するとその女性は「住職さんも毎日の掃除は大変でしょう。私はお墓参りが 日課だから、来たついでに草取りをして帰るだけですよ。この奥さんには、いつもよくしてもらっているからねえ」と話されました。

お手伝いくださるのは、この女性だけではありません。ご近所に住む ある方は、駐車場の落ち葉を掃いてくださいます。私がお礼を言うと、その方は「時々駐車場を使わせてもらっています。子どもたちも ところで遊ばせてもらっていますから・・・」と話してくださいました。他にも、猫に 餌をやったり、花の水やりに来てくださる方など、多くの方のご親切をいただいています。

多くの方々のお手伝いがあるのは、奥さんが普段からお寺に来た方に、何気ない会話のやり取りや、おすそわけなど、心遣いをしておられるからでした。ですからその方々と奥さんの間には、助けたり助けられたり、与えたり与えられたりという「関係性」が築かれているのだと感じました。そのような関わりがあるからこそ、奥さんの長期不在でも、多くの方がお寺に来られお手伝いをしてくださるのです。本当に有難いことです。

現代社会は、人と人との繋がりが希薄だと言われています。そのような時代だからこそ、この奥さんとお寺に関わる方々のような繋がりを大切にしていかななくてはならないと思います。私も、助けたり助けられたり、何かを与えたり与えられたりというやりとりを重ねることで、お互い温かで爽やかな気持ちになる繋がりを大切にしたいと思いました。